早生タマネギ品種比較試験

平成20年９月３日
総合農事センター

１　目的

年間を通して消費されるタマネギは、最近健康野菜として注目されています。中でも甘みのある早生のタマネギは、サラダや炒め物などに消費が伸びています。保存できないため、鮮度が食味に直結する品目です。超早生から早生の７品種の品種比較試験を行いました。

２　試験

（1）試験期間　　平成１９年９月１３日～平成２０年４月２５日

（2）品種名　　（超早生）スーパーエクスプレス、貴錦
（極早生）関西エクスプレス、アーリートップ、濱の宝
（早　生）浜育、チャージ

（3）栽培場所　　総合農事センター　露地圃場

（4）栽培方法

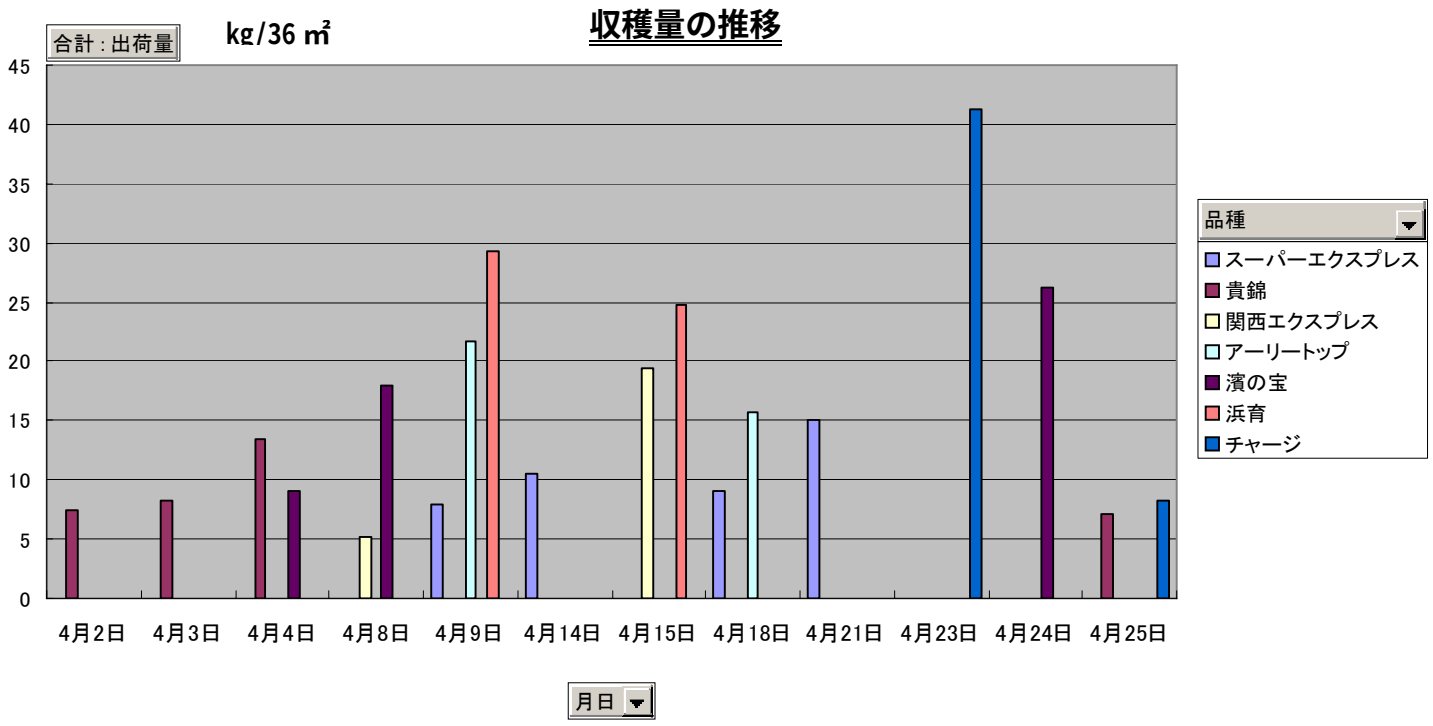
① 畝幅　　150㎝
② 株間　　20㎝、四条植え
③ 施肥　　苦土石灰（100kg/10a）、スーパーロング 424（100kg/10a）

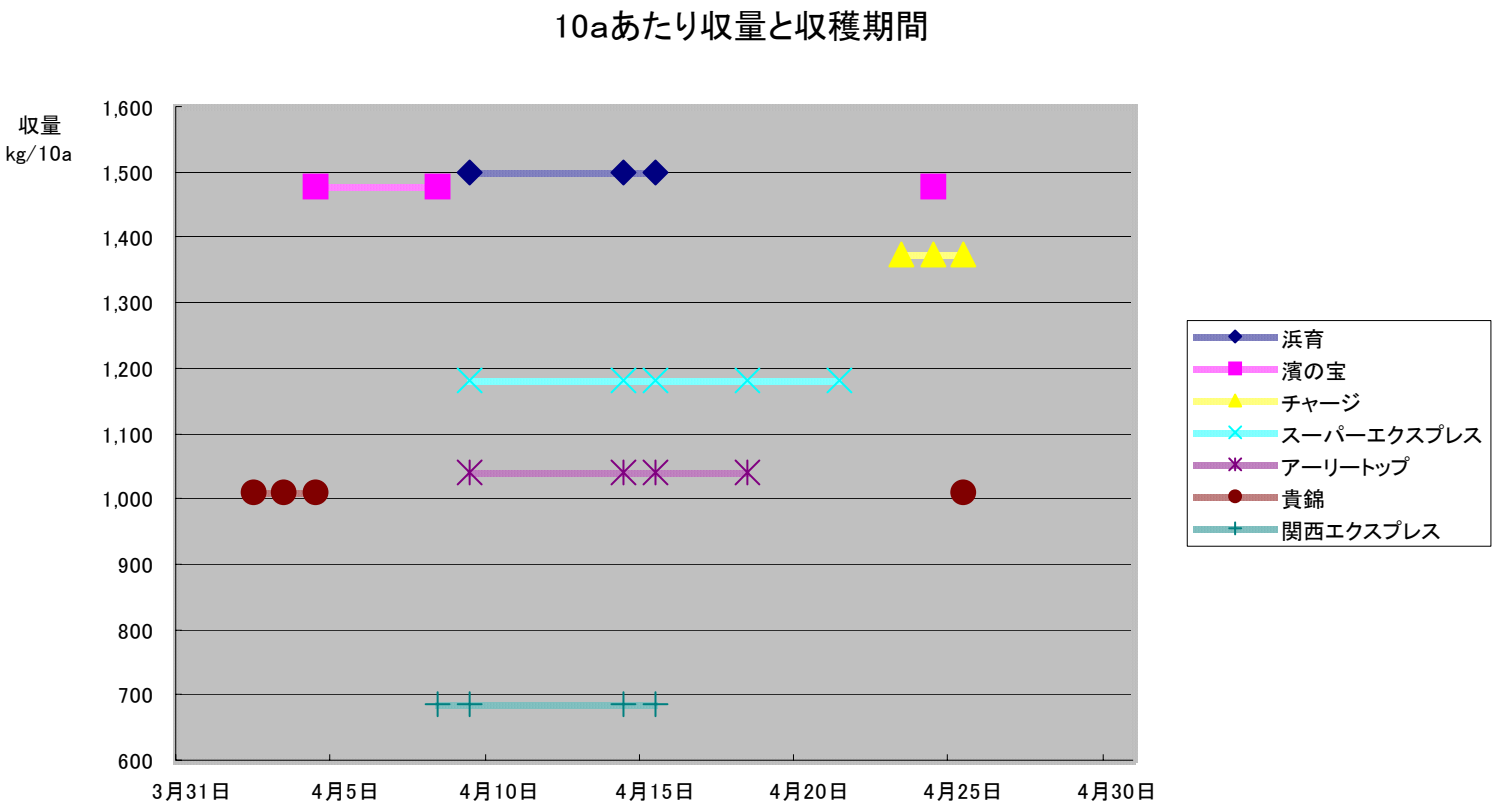
３　栽培経過

（1）播種　　９月１３日
（2）定植　１１月１５日
（3）追肥　　１月３０日

４　試験結果

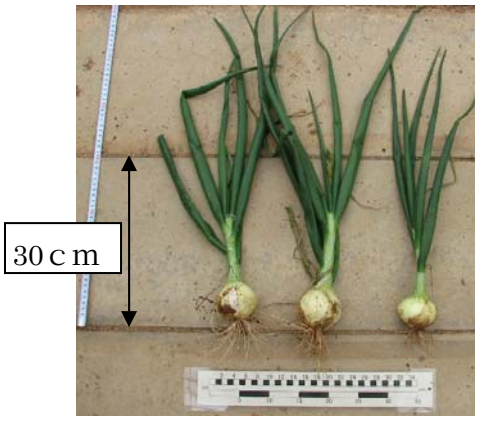
（1）収穫量及び収穫期間





(2) 収穫量及び形状

品種名	収穫量（kg/10a）	平均径（cm）	平均重量（g/個）	備　考
スーパーエクスプレス	1,180.0	66.3	131.0	石原交配
貴錦	1,010.0	69.8	153.4	金子種苗
関西エクスプレス	687.0	68.7	130.7	石原交配
アーリートップ	1,041.0	71.5	157.8	中原種苗
濱の宝	1,479.0	68.4	173.4	金子種苗
浜育	1,500.0	69.9	181.8	金子種苗
チャージ	1,375.0	68.8	168.9	タキイ種苗



スーパーエクスプレス	貴　錦	関西エクスプレス

アーリートップ	濱の宝	浜育

チャージ

5　考察

- 超早生品種の「貴錦」の出荷がもっとも早かったが、収量の点では、早生品種の「浜育」が、最も多かった。
- 極早生品種の「濱の宝」は、比較的出荷も早く収量も多い。ただ、収穫のばらつきが少し見られ、最後の収穫は 4 月下旬であった。極早生品種の「貴錦」にも同様のばらつきが見られた。
- 早生品種の「浜育」は、1 週間程度収穫が遅れるものの、収量も多く 1 週間程度の収穫期間であった。
- 早生品種の「浜育」、超早生品種の「スーパーエクスプレス」、極早生品種の「アーリートップ」・「関西エクスプレス」の収穫開始時期がほぼ同じであった。
- 超極早生ほど生育のばらつきが多い傾向が認められた。収量と早期出荷のバランスがいい「濱の宝」、早生品種だが収量の多い「浜育」が、有望であると思われる。
- 食味の品種ごとの比較は行っていないが、早生タマネギのため甘みが強く、食味が良いため出荷（農事センター売店）すれば完売の状態だった。

※今回の品種比較試験は、同じ日に播種、定植を行っているため、品種の特性が十分に生かしきれていない面が見られる。あくまでも同一条件で栽培した比較であることをご了承いただきたい。